飛鳥 ASUKA KAWARABAN かわら版

2025年 6月 梅色号 第217号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室
発行人 永野 正将
ADD：〒780-0945 高知市本宮町65-6
TEL：088-850-0588
MAIL：info@asuka-net.jp

もくじ

日本からの眺め⑦ …… 氏原名美 02
新聞余話㉗ …… 大澤重人 03
おのころじま奮染記 35 …… 田島征彦 04
スマホ写真館 …… 05
広告 …… 06
さもないこと❽ …… 永野雅子 08

日本からの眺め⑦

春の日の花と輝く

校長先生の「贈ることば」

氏原名美

中学高校時代、運動会の目玉種目の一つがフォークダンスだったという世代は、テトリスのゲームに興じながら、あの『コロブチカ（コロベイニキ）』のステップを思い出したのではないだろうか。

学生食堂の喫茶部に行くと、『シクラメンのかほり』が夏も秋も年が明けても流れていた半世紀前、学生運動は下火になっていたが、北辺の大学では教養部の外壁にまだゲバ文字の檄が残っていた。メロディーと景色が重なり、時間があっという間に逆戻りする。

＊＊＊

ラジカセが一人一台という勢いで普及し始める前、ラジオの深夜放送に中学生も夢中になり始めたころ、放送部の話題は「ゆうべ何を聴いたか」だった。『ヘイ・ジュード』もよくかかるという。だが、山に囲まれたうちの町では目当ての周波数に合わせるのがなかなか難しく、夜半過ぎからは北京放送に邪魔される。レコードで聴こうにも、シングル盤が四百円。路面電車が高知市内は十円均一という時代、小遣いの蓄えも僅かだし、すぐには手が出ないと諦めていた。

そんなとき、席替えでたまたま隣合わせになったクラスメートがレコードを貸してくれた。きっと大事な一枚だっただろうに、私はきちんと礼を言った記憶がない。今になって心苦しく思う。

＊＊＊

ストリーミングサービスで好きなときに好きな音楽が楽しめる今と違って、私が小学校に上がるまで家には蓄音機もテレビもなかったから、うちに帰るとラジオが唯一の音楽情報源だった。母は、ラジオで聞いたまま意味もわからず歌謡曲を覚えてしまう私を重宝がって、歌詞を書き留めるための録音機がわりにしたものだ。

保育園ではいつも居残り組だった。午睡の後のおやつの時間が終わったら、祖父母や年長のきょうだいが面倒を見てくれた時代、次々にお迎えがきて、四時前には友だちはもういない。一人で遊んでいるうちに、小学校からゆったり流れるような音楽が聞こえてきて、「下校の時間になりました」というアナウンスがそれに続く。母が迎えにくるまでもう少し、と合図をしてくれているようだった。

確か、五年生の時だったと思う。休みの日に友だち数人と校庭で遊んでいたら校長先生が「校内探検」をしようと誘ってくれた。給食調理室や理科の実験用具を保管してある部屋など、普段は児童が出入りしないところを案内してもらった。

放送室に入って、棚に並んだレコードをみんなで珍しげに眺めていたら、「何か聞いてみようか」と言って校長先生がたまたまかけてくれたのが『金と銀』のさわりと『動物の謝肉祭』の中の「白鳥」だった。サン＝サーンスと保育園で毎日聞いたあの音楽が初めて結びついて、ひとり遊びをした園庭の一番のお気に入りだった水飲み場が急に懐かしくなった。

＊＊＊

歌やメロディーは過去と重なる。聞き覚えのある調べとともに昔が蘇り、記憶の中の人々が語りかけてくる。

小学校の卒業式では、『君が代』斉唱も日の丸の掲揚もなく、『仰げば尊し』も『蛍の光』も歌われなかった。式場で私たち卒業生を迎えてくれたのは『春の日の花と輝く』だった。アイルランド民謡にトマス・ムーアが愛しい人への褪せることのない想いを謳った詩をつけたことも、日本語の歌詞は堀内敬三の訳によるということも知らなかったが、ずいぶん経って自分が学生を送る立場になった時、あの歌は校長先生からの餞だったと気がついた。

♪きょう「春の日の花と輝く」みなさん、これからの人生ではいろいろなことがあるでしょう。でも、「移ろう世の冬は来るとも」、「わが心は変わる日なく」、「とこしえに」みなさんのことを思っていますよ…♪

歌は今でも、私たちの、一年生から卒業の時まで越知小学校の校長先生だった、川添演先生のことばをのせて、響いている。

氏原　名美
うじはら・なみ
ビシケク国立大学東洋国際関係学部特任教授。越知町出身。北海道大学卒。

ビシケク市街からアラトー山脈を望む（写真：*Saijo Y.*）

新聞余話㉗ 大澤重人

背信へのクリック

今、スマホを手にしたら――。こんなネット記事の見出し。

《6連敗で借金生活に突入…「広島の救世主」として期待される和製大砲は》（カープファンなのでこの手の記事がよく並びます）

今さら救世主がいたか？　思わずクリックします。

《ダメージの大きい敗戦だが、気持ちを切り替えて前に進むしかない。広島が5月1日の巨人戦（東京ドーム）で延長12回の末に、今季3度目のサヨナラ負け。6連敗で借金生活に突入し、4位に転落した》

前文と言われる第一段落には肝心の名前がなく、それが出てくるのは3段落目の最後です。なんのことはない4番に座っている末包昌大選手です。読むまでもありません。クリックをさせたことで、記事の作成者がほくそ笑んでいるのが目に浮かびます。ささやかな広告収益につながることがあるのです。

ネットには、こうした釣り記事が横行しています。

記事は逆三角形に書け！

新聞社の新米時代に、耳が痛いくらいにそう教えられました。読者は忙しい。だらだら書いても読まれない。大事なことは前に前に置け。前文さえ読めば、おおよそのことがわかるように。当時はまだ活字印刷の時代で、記事が収容しきれないと、印刷の職人さんが記事の最後部から機械的に活字を外していったと聞いています。大事なことを最後に書いていたら、スパッと捨てられる可能性があったのです。

冒頭の記事の前文を逆三角形で書いてみると――。

5月1日の巨人戦（東京ドーム）で延長12回の末にサヨナラ負けし、6連敗した広島。振るわない打撃陣の中で気を吐いているのが、和製大砲の末包昌大選手だ。4番に座り、得点圏打率3割台と勝負強さが光る。

見出しを付ける部署にもいたことがあります。記事さえ読む時間の惜しい読者に、見出しだけ見ても全体像が伝わる文言選びに苦労しました。先の記事の場合、見出しに選手名は必須です。でもそうすると、読むに値しない記事だと気づかれ、クリックされないかもしれません。

こうして安易に気を持たせ、回りくどい見出しや記事が横行するわけです（紙の新聞の記事にもその影響は及んでいます）。極端な話、読む読まないは関係なく、クリックさせたら「勝ち」なんでしょう。

この手の記事は、いずれＡＩが瞬時に、もっと上手に、しかも誤字なしに作ってくれるでしょう。小手先の「記者」は早晩、職を失います。

最近は読んでいたら、文字部分を覆い隠すかのように、広告が勝手にわいてきます。閉じるための「×」が見つけにくかったり、広告を何秒間か見ないと、続けて読めないケースもあります。無料で情報入手している以上、仕方ない面もありますが、そんな邪魔でしかない広告の商品を好んで購入する「聖人」がいるのでしょうか。

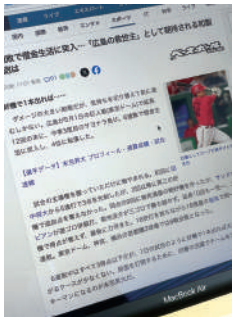
良くも悪くも、ネット記事は情報の入り口としてますます定着していくはずです。受け手のリテラシーや付き合い方が問われる一方で、メディアには一人のＯＢとしてこう尋ねたい。

クリックのたびに、その生命線であるはずのものを失っていませんか。

ちいさな利益のために、おおきな信頼を。

そして気づきます。わかっちゃいるけど、背に腹はかえられないのか、と。

事態は深刻です。



ネット記事は、クリックされるかどうかが勝負？

大澤　重人
おおざわ・しげと
渡来人歴史館（大津市）専門員、元毎日新聞高知支局長

敗戦からちょうど80年となる今年8月15日、『裸足で越えた三八度線―「死滅の村」からの引き揚げ』を出版予定。

おのころじま大奮染記

ふんせんき

35.「憤　染　記」－3－

田島征彦

いよいよ「憤染記」の出版される日がきました。出版記念パーティーが京都国際ホテルで、４００人を越える人たちが集まってくれて開かれることになり、招待した有名文化人たちも揃って出席の返事をしてくれています。

京都市立美術大学染織科の先輩で、いつもお世話になっている清水忠さんと、この本を出版してくれる染織と生活社の佐藤能史編集長が、すべて段取りをしてくれています。

1月30日のパーティーを前にして、17日早朝に神戸で、大きな地震があったようです。それは日を追うごとに、ただごとではない情報が伝わってきます。パーティーの司会をお願いしていた神戸にお住まいの鹿島和夫さんから、京都へは出られないという返事が届いたのは、もう20日を過ぎていました。

１９９５年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源地とするマグニチュード7.3の地震が発生して、阪神地域に甚大な被害をもたらしました。国内初めての震度7を記録しました。死者、６４３４人（関連死を含む）負傷者４万３７９２人。これは戦後最大でした。

ねじくれて倒れた高速道路、大きなビルの倒壊写真が新聞で報じられ始めました。神戸・長田区に大規模火災が発生して、悲惨な様子がテレビでも見られるようになりました。

こんな時に、ホテルの豪華な会場で、お酒を飲んでお祝いしてもらうことは出来ません。パーティーは中止にしてもらいました。

しかし、染料会社の社長さんが、大奮発してくれたぼくの初めての画文集は、出版記念会に来てくれるファンの人たちに渡らぬままべて終わってしまうのです。

忠さん（清水忠さん）や佐藤さんの報われない大きな仕事に対して、ぼくはどうすればよいのか、あまりのショックで、そのあとのことを、よく記憶がないのです。

膨大な量の「憤染記」が残されました。染織と生活社の編集室が本でいっぱいになり、入室ができない状態だったと、佐藤さんが話してくれました。そうしている内に、会社に力がなくなり、佐藤さんを残して、3、4人いた編集者もいなくなったのです。

とは言え、この本には、ぼくの半生のすべてが詰まっています。それが読まれず残っています。このエッセイを書くため改めて、長編の半生記を久しぶりに読みました。

浮き沈みの人生とともに、作品制作に、どんな想いを込めてきたか、30年前の心をそのまま描いています。今、85歳のぼくは、出版される望みのない、つづきの「憤染記」を力強く創っていく覚悟をするのでした。

田島　征彦
たじま・ゆきひこ
染色家・絵本作家

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごす。京都市立美術大学染織図案科専攻科修了。一九七八年『じごくのそうべえ』で第一回絵本にっぽん賞。二〇一五年『ふしぎなともだち』で第二十回日本絵本大賞。沖縄の子どもたちを主人公にした「やんばるの少年」の次には沖縄戦を題材に、子どもたちに、戦争のことを、平和の大切さを伝える絵本「なきむしせいとく」が二〇二三年度の講談社絵本賞を受賞した他、国際的な評価を受けました。

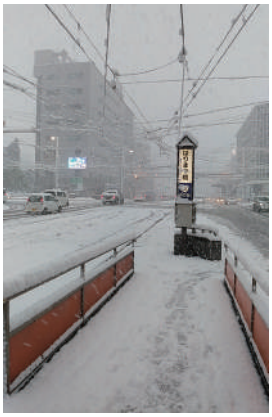
※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

スマホ写真館

スマホで撮影した写真は、ほとんど見返さないとよく聞きますよね。そこをあえて、見返してみました（笑）記念に残る写真、なんで撮った？な写真、メモ代わりの写真、いろいろありました。
みなさんも一度は、見返してみてはいかがですか？

ある日の夕焼け

7年前、よさこい祭り前夜祭花火開始の直前、航空自衛隊ブルーインパルス展示飛行・曲技飛行が行われた。その前日の練習飛行を会社から撮影。



⬆ 3年前の12月22日19時に中央公園を撮影。
⬅ その12時間後の12月23日7時にはりまや橋電停を撮影。
高知市では23日8時に観測史上第1位となる最深積雪14cmを観測しました。

アジサイ観賞
かくれ〇〇〇!?

着飾ってみたかったのかしら?

某駐車場にてなんとなく撮影
親近感!?

可愛い♥ポスト！
懐かしいと思った方は…

どうしてそこに!?

表紙写真提供…姪
制作部…ニシモト

従来はオフセット印刷が主流だった白版印刷。一定の部数以上でなければ利用出来ないものでした。

クリアも白も、手軽にPODで！

Print on Demand

名刺・DM・フライヤー・パンフレット・POP・カード・封筒など…個人や仕事にかかわらず
クリアやホワイトをデザインに取り入れて Original / Premium / Stylish / Variation

「より魅力的なアイテム」制作、試してみませんか？

クリア印刷

ニスやラミネートのような光沢感のクリアトナー。デザインの上での光沢コーティングや、コピーできないという特徴から偽造抑止に活用など、使用方法はアイデアの数だけ広がります！

ホワイト印刷

黒や濃色のメディアに白でデザインや文字を印刷することで特別感のある印刷物に！また、特殊メディアとの相性バツグン！アルミ蒸着紙などのメタリック調を活かしつつデザインすることも可能です。

必要な時に必要な数だけ
という「おトク」

必要なアイテムを必要な数だけ。
足りなくなればリピートもカンタン。
【小ロット／低コスト／短納期】を
可能にするPOD活用のご提案です。

RICOH Pro C7200SHT

多彩な用紙で、多彩な表現を。 普通紙やコート紙のほか、凹凸紙などに対応。立体POP、リーフレット、メニューなど、多彩な活用はアイデア次第！※紙によって印刷相性があります。事前にご相談ください。

幅広い用紙サイズ 100×139mm～330.2×487.7mmまで対応。さらに長尺印刷（片面時）は、最大1,260mmまで対応し、A4三つ折りのパンフレットや店頭バナー等も制作可能です。

中綴じ製本 小ロット（1冊～）からOK!表紙と本文の紙替なども対応可能です。
※最大20枚（80p）程度まで（用紙種類、紙厚などのご使用条件によって異なる場合があります）

封筒への印刷OK! フルカラー印刷のオリジナル封筒など、小ロットから印刷できます。
※セロハン窓等の熱で溶ける仕様のものはプリント不可です。

小ロット OK！

短納期 OK！

お問い合わせ ・ お見積もり ・ ご注文は……株式会社 飛鳥まで **お気軽にご相談ください**

Sustainable Development Goals

私たち、株式会社 飛鳥は SDGs（持続可能な開発目標）に 取り組んでいます。

■ SDGs宣言書

弊社の「SDGs 宣言」に対して認定書をいただきました！

■ 実質再生可能エネルギー 100%電力

弊社の使用する電力は「再生可能エネルギー指定の非化石証明書の使用により、実質的に再生可能エネルギー 100%」の電力の契約となっております。

■ 環境保全活動『Green Graphic Project』参加

富士フィルム環境保全活動『Green Graphic Project（GGP）』に参加し、「カーボン・オフセット証書」を発行されました。

当社は、2017 年より富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社様の CTP を使用し、2022 年の CO_2 削減量は 7,421kg となりました。
（2021年 6,286kg、2020年 8,549kg、2019年 9,329kg）

■ 中小企業家同友会全国協議会　同友エコ奨励賞

■ 経済産業省中小企業庁「事業継続力強化計画」認定

すもないこと 8

食いしん坊

永野雅子

私は昔から食いしん坊で、学生時代は友人から「ヤセの大食い」と言われていた。

食べるのは一人前以上なのに体重は増えない。50歳頃までそれが続いたからいい気でいたら、加齢とともに体重が増えてお腹ぽっこりになり、孫に「おばあちゃん、いつ赤ちゃんが産まれる?」と聞かれる始末。

洋服も9号だったのがいつの間にか11号に。この勢いだと13号になりかねない。さすがにこれはヤバイと思い始めたが、長い間の食習慣はそう簡単に変えられない。

特に小豆が好きで、粒あん入りのお餅ときたら目がない。夫の生前、一緒に買い物に行って店頭に並ぶあん餅を眺めていると、後ろから「お母さん(私のこと)、その腹を見なさい!」と、夫の声。わかっているけれど、いっぺんに食べるわけじゃないしと買ってくる。帰ると5個のうち3個をラップに包んで冷凍室へ、2個は美味しくいただく至福の時間。あと3個あると思うだけで幸せ気分。

よほど単細胞なのか、会社から疲れて帰る車中で、帰ったらあん餅を食べよう!と思うと元気になる。

いつだったか、「これほど働いて、遊びに行くわけじゃなく、まして宝石を買ってなど言ったことないろう?お餅で幸せになるなんて安上がりよね。」と夫に言ったら笑っていたけれど。

ただ、一人暮らしになってからは、自分の健康は自己責任だと思うので、冷凍室のあん餅も少なくなった。その代わり、食べきれない野菜や魚などを小分けにして冷凍し、こまめに調理する。

先日もひよこ豆があったのでミネストローネを作ってみた。スマホで検索したら詳しく教えてくれる。便利な時代になったものだ。冷蔵庫の余り野菜をたくさん入れたので鍋いっぱい出来て、美味しいこと。ただ、3日も食べる事になって作り過ぎを反省。

それに加えて最近糠漬けに挑戦してみた。きゅうりやなす、茗荷(みょうが)などを漬けるとそれだけで一品になるし、何より美味しい!発酵食品だから体にも良いらしい。

楽しんでいる内は良かったが、忙しい時は毎日かき混ぜるのが面倒になってきた。そこでスマホで検索。休みたい時は容器を冷蔵庫か冷凍庫に入れると良いとある。良かった~!

食事は健康と直結するから、できるだけ手作りで、その時の体調に合わせたものを食べるようにしている。なんでもない普段のおかず、焼き魚にほうれん草のおひたし、イタドリの炒め煮に茄子の糠漬けを食卓に並べて「いただきま~す。これが豊かな食卓ってことよね」と、一人で満足。なんとも単純な人であることよ!

永野 雅子
ながの・まさこ
株式会社 飛鳥
常務取締役
著書「わが家の太郎」

「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第217号【梅色号】飛鳥出版室

●発行所:株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将
●住 所:〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話: 088-850-0588
●メール:info@asuka-net.jp ●ホームページ:https://www.asuka-net.jp